

教職員の研修の在り方についての調査研究

－教職員の資質能力向上のために－

湯 島 雅 俊

当教育研究所で計画・運営している教職員研修講座は、県内の教職員の自主研修を支える重要な役割を担っている。教職員の資質の向上、それを通して現場の様々な課題に集団で対応していく力をつけることを最大の目標としている。

本研究では、教職員の研修ニーズを調査し、より強く教職員をサポートできる研修講座の在り方を探り、次年度の研修講座設定に向けた資料作成を目指す。更に、教職員の経験年数に応じた研修ニーズの変化を分析することにより、ライフステージに対応した研修講座の設計について考察し、福井県全体の教育力を伸ばすための様々な施策への一助とする。

<キーワード> 教職員研修、研修ニーズ、ライフステージ、教職員の資質向上

I 主題設定の理由

教育について様々な問題が論議される今日、学校や子どもたちをめぐる課題は山積みで、教職員には保護者からも社会からも多面的な要求や期待が寄せられている。そのために、教職員には、一般的・専門的な知識や技量のみならず、常に新しい情報や知識を得て激しく変化する社会に対応していく柔軟な姿勢が求められており、教職員は日々様々な場面で研修に励み、自己の資質向上に努めている。

このような情勢の中で、教育研究所の研修講座は、自己研修や校内研修を補完するための校外での研修として大きな役割を担っており、その内容を充実させていくことが常に求められている。よって、研修講座受講の現状や課題を把握するとともに、教職員の研修ニーズを詳細に探り、来年度以降の研修講座の改善・充実に活かしていくために、この主題を設定した。

II 研究の目的

本研究では、教職員の研修に関する調査研究を通して、福井県教育研究所の研修講座受講の現状や課題を把握するとともに、教職員の研修ニーズを探る。その結果を、福井県教育研究所の研修講座の改善・充実に活かすとともに、福井県全体の教職員研修の方向性を探る資料として提供できるようにする。

III 研究方法

アンケート調査を実施し、データを得る。平成19年度は次の項目を実施する。

- (1) 教職員の研修ニーズのアンケートを作成する。
- (2) 福井県教育研究所の研修講座受講者を対象としたアンケートを実施する。
- (3) 調査結果の集計・分析・考察をする。
- (4) 次年度の研修講座立案に向けての参考資料という形で報告書をまとめる。

IV 研究内容

1 調査のねらい

本県教職員の研修に関するアンケートを行い、研修ニーズの現状を把握し、福井県教育研究所の研修講座を設計するための資料とする。

2 調査対象

福井県教育研究所の研修講座受講者（夏期休業中実施研修講座）から、無作為に抽出する。

3 アンケートの内容

前年度の調査を元に、教育研究所での研修講座の受講状況と実施上の課題について設問数やその内容を検討した結果、福井県の教職員の研修ニーズ、教職員の資質向上に関連する内容を考え、主に次のような設問を入れることとした。

- 校種・職種・経験年数など
- 研修講座の実施時期について
- 土日、夜間の研修講座のニーズについて
- 研修講座の内容について（具体的な記述を含む）

4 調査対象について

(1) 対象者

| 校種 | 回答数 | 構成比 |
|--------|-------|--------|
| 幼稚園 | 190 | 12.6% |
| 小学校 | 682 | 45.3% |
| 中学校 | 345 | 22.9% |
| 高等学校 | 229 | 15.2% |
| 特別支援学校 | 61 | 4.0% |
| 計 | 1,507 | 100.0% |

| 職種 | 回答数 | 構成比 |
|-------|-------|--------|
| 校長・園長 | 64 | 4.2% |
| 教頭 | 91 | 6.0% |
| 教諭 | 1,182 | 78.4% |
| 養護教諭 | 95 | 6.3% |
| 実習助手 | 4 | 0.3% |
| 事務職 | 27 | 1.8% |
| 講師 | 22 | 1.5% |
| その他 | 22 | 1.5% |
| 計 | 1,507 | 100.0% |

| 学校所在地 | 回答数 | 構成比 |
|-------------|--------------|---------------|
| 嶺北 | 1,371 | 90.9% |
| 福井市 | 532 | 35.3% |
| 永平寺町 | 42 | 2.8% |
| 大野市 | 60 | 4.0% |
| 勝山市 | 69 | 4.6% |
| あわら市 | 63 | 4.2% |
| 坂井市 | 166 | 11.0% |
| 鯖江市 | 102 | 6.8% |
| 越前町 | 65 | 4.3% |
| 池田町 | 19 | 1.3% |
| 南越前町 | 32 | 2.1% |
| 越前市 | 221 | 14.7% |
| 嶺南 | 136 | 9.1% |
| 敦賀市 | 43 | 2.9% |
| 小浜市 | 29 | 1.9% |
| 美浜町 | 15 | 1.0% |
| 高浜町 | 20 | 1.3% |
| おおい町 | 8 | 0.5% |
| 若狭町 | 21 | 1.4% |
| 全県合計 | 1,507 | 100.0% |

(2) 調査期間および調査講座数

調査期間 夏期休業中（平成19年7月26日～8月31日）

調査講座数 75講座

5 研修講座の受講者の調査結果

(1) 教育研究所での研修講座の受講状況と実施上の課題について

① 研修講座の実施時期について

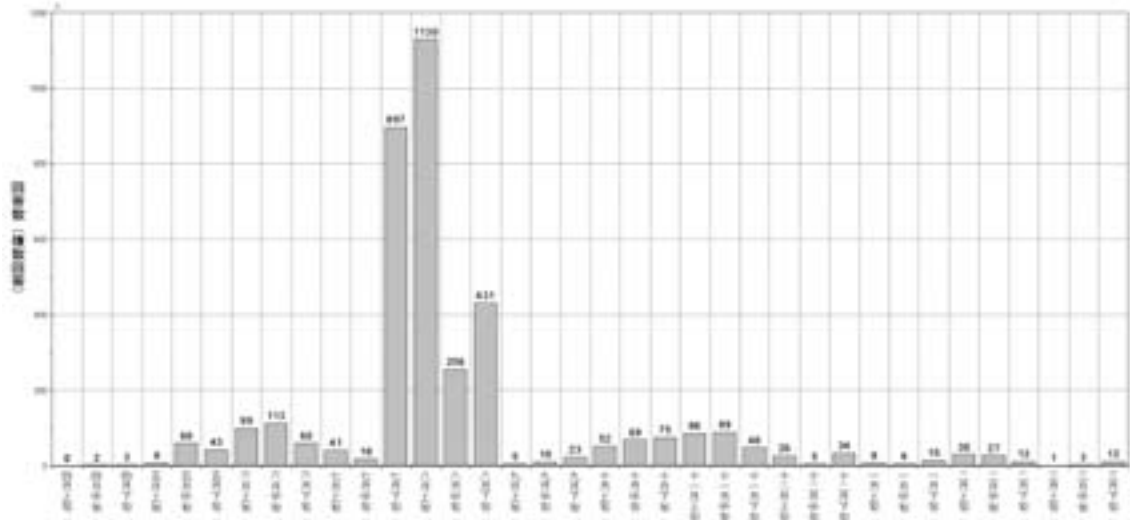


図1 研修講座実施希望時期（全回答者）

図1は、全回答者の研修希望時期をグラフ化したものである。最も研修に出やすい時期として7月下旬・8月上旬が選ばれているのは例年通りである。また、研修講座を設計するには向かない時期は、4月～5月中旬・9月・12月中旬・1月・2月下旬～3月となっている。

この結果を、もう少し詳細に調べるために、校種別・職種別・2学期制と3学期制という分類で分析し、その結果を以下にまとめる。

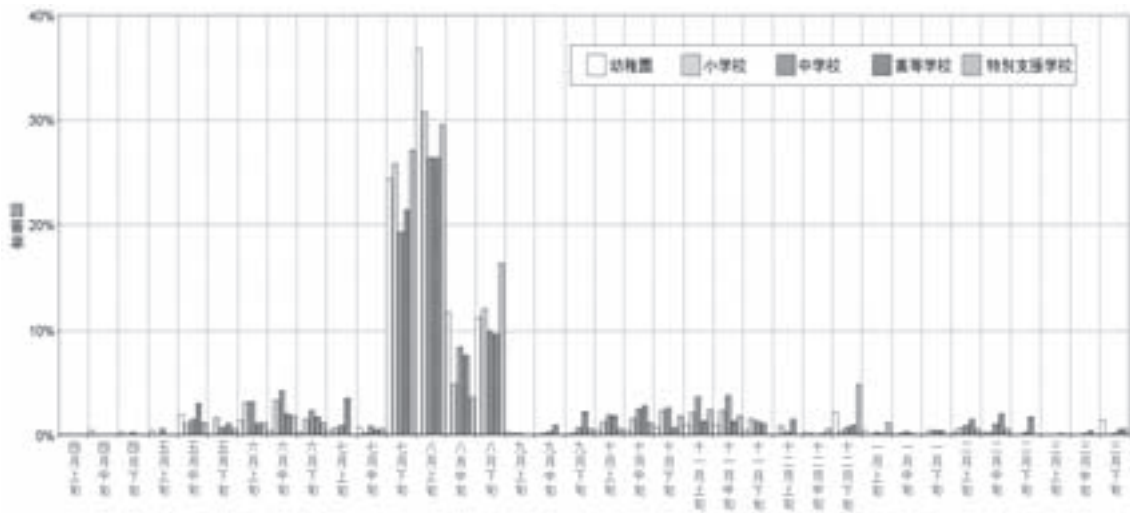


図2 研修講座実施希望時期（校種別）

図2のように校種別に講座の実施希望時期を分析した結果、夏期休業中である7月下旬～8月上旬は、どの校種も共に高い値を示しているが、小学校と比較すると中学校・高等学校は7月下旬のニーズがやや低い。部活動の大会の時期、夏期休業中の補習授業と重なっていることが主な原因と思われる。また、幼稚園・特別支援学校は特に長期休業中の希望が高い。担任の比率が高く通常の授業日に研修機会を取りにくい状況であることが考えられる。

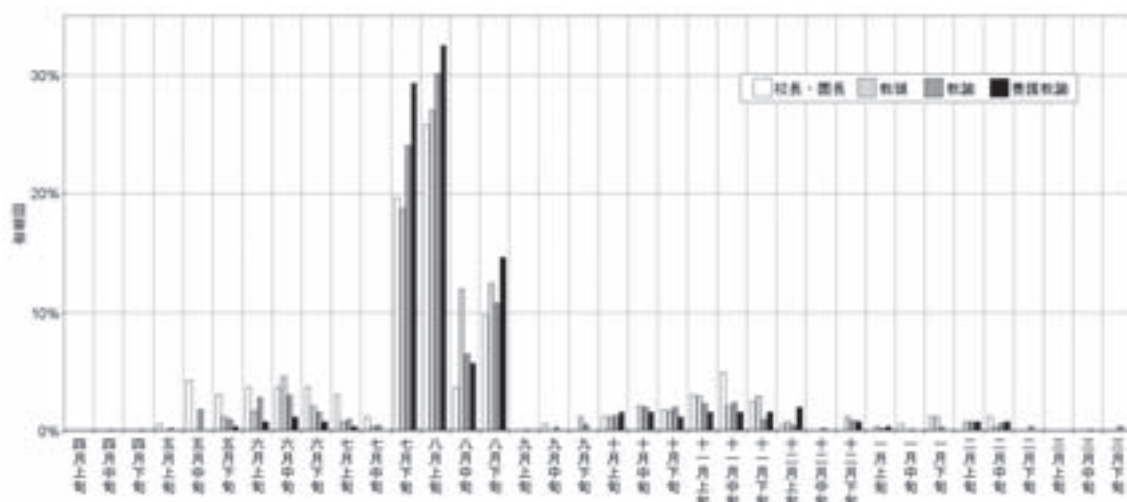


図3 研修講座実施希望時期（職種別）

また、図3にあるように職種別に調査結果をまとめてみると、校長は年度当初の研修を希望している傾向があるが、教頭は、5月下旬以降の研修を希望するものが多い。年度当初の様々な報告文書の処理など、多くの業務を抱えているためと記述にも見られた。また、同様に養護教諭についても年度当初を避ける傾向にある。全校児童生徒の身体測定や様々な文書作成に追われている様子が表れている。教職員全体としては、研修に出やすい月は、5月下旬～6月下旬・7月下旬～8月上旬・8月下旬・10月下旬～11月下旬である。これらの時期を中心に研修講座を設定することが教職員に比較的無理がかからない状態と思われる。それ以外の時期には、極力1日又は半日の研修講座を設定しないことが望ましい。

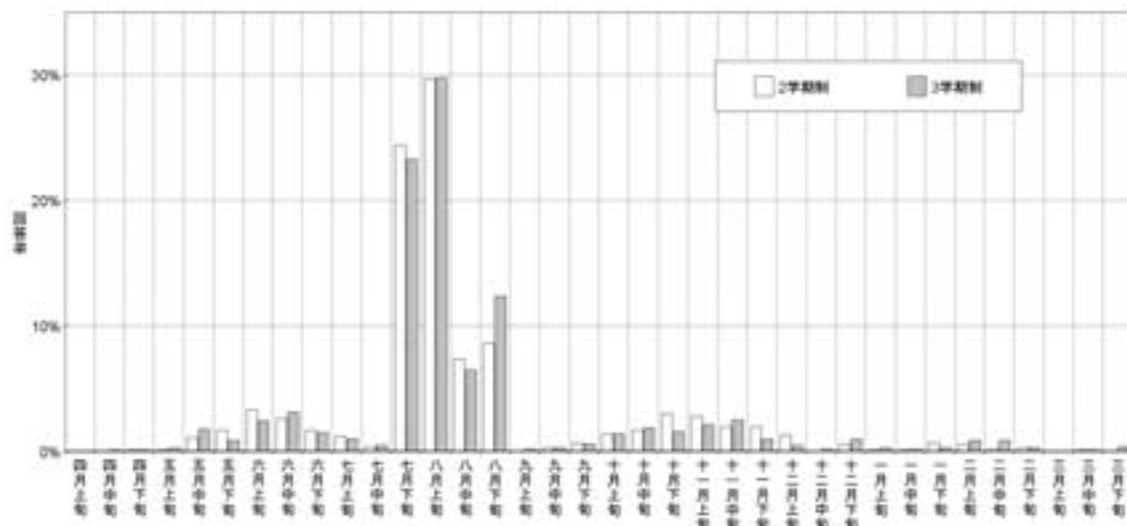


図4 研修講座実施希望時期（2学期制・3学期制）

図4は、2学期制と3学期制での実施希望時期を比較したものである。（現在2学期制を取り入れているのは、福井市と敦賀市の義務制であり、受講者の大半を占めている。）全体の傾向としては、どちらにも長期休業中に集中するという点で大きな差異はみられないが、2学期制と3学期制では、選択される時期が長期休業前後や学期の区切りなどで微妙に異なっている。この差を考慮した研修実施日を考えることも必要と思われる。

② 研修講座の休業日開催、夜間開催について
 さらに、今年度は、近年、他の都道府県で実施されている「勤務時間外の研修講座」のニーズについて調査した。平成19年度の実施状況は、下の表1にあるように、47都道府県の教育センター中、20のセンターが勤務時間外の研修講座を実施している。そのほとんどは、「土曜の出張扱いにならない自主研修」という形で行われているが、熊本県のように初任者研修の宿泊研修のうち第1日目を日曜日に当てているところもある。

今回の当所の調査結果では、休業日の研修講座については28.7%、夜間の研修講座は20.6%が内容によっては参加を希望しているが、大多数はこれらの日程で研修講座を行うことを良いと考えていない。また、他センターのように教職員以外にも門戸を開いて講座を設定しているわけではないので、それほど多数の受講者は見込めないものと思われる。しかし、他県の動向を見ると、今後も教職員のニーズの変化を見守っていく必要はあるようだ。

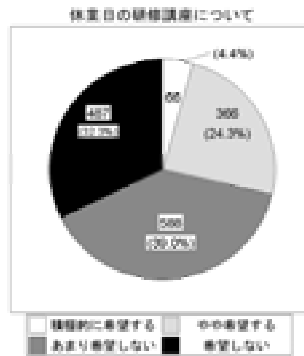


図5 休業日のニーズ

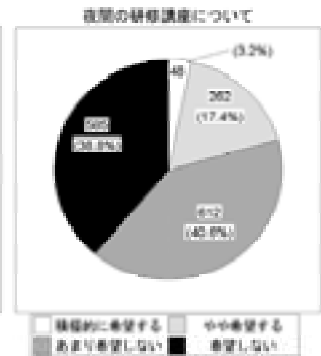


図6 夜間のニーズ

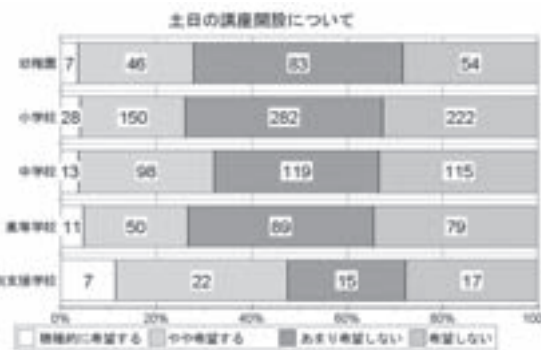


図7 休業日のニーズ (校種別)

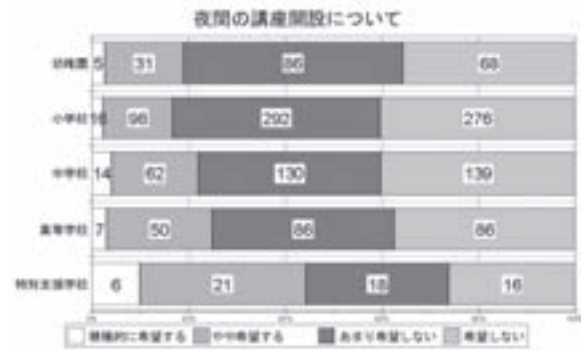


図8 夜間のニーズ (校種別)

表1 都道府県教育センター 主な勤務時間外研修講座

| 都道府県教育センター名 | 講座名称 | 参考ウェブサイト |
|-----------------|-------------------|---|
| 秋田県総合教育センター | 土曜講座 | http://www.akita-c.ed.jp/center/action/doyou/h19itiran.pdf |
| 茨城県教育研修センター | サポート研修 | http://www.center.ibk.ed.jp/h19_kensyu/support.htm |
| 栃木県総合教育センター | 土曜開放講座 | http://www.tochigi-c.ed.jp/kensyu/kensyu2007/PDF/senmon3-1.pdf |
| 群馬県総合教育センター | サポートセミナー | http://www.center.gsn.ed.jp/kensyu/kouzakensaku.htm |
| 埼玉県立総合教育センター | サタデーサポート | http://www.center.spec.ed.jp/b/b_ctn.html#6 |
| 千葉県総合教育センター | 休日開放講座 | http://www.ice.or.jp/~kikaku/kyujitu/kouza2007.html |
| 東京都教職員研修センター | 理数系教員指導力向上研修 | http://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.jp/training/other/o9.html |
| 神奈川県立総合教育センター | 教育を考える公開講座 | http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kenmin/h19index.html |
| 山梨県総合教育センター | 連携教育研修 | http://www.ypec.ed.jp/syukai/syougai/index.html |
| 静岡県総合教育センター | 公開講座 | http://www.shizuoka-c.ed.jp/center/kensyu/h19/koukai.htm |
| 長野県総合教育センター | 特別企画研修 | http://www.edu-ctr.pref.nagano.jp/kensyu/H19_annai/9_tokubetukikaku.pdf |
| 岐阜県総合教育センター | 自主研修土曜講座 | http://www.gifu-net.ed.jp/tmd/kensyu/kenshu/doyou-panfu.htm |
| 三重県教育委員会事務局研修分野 | ケース・カンファレンス研修講座 | http://www.mpec.jp/page/02kensyu/php/skillichiran.php |
| | 日本語指導実践初級講座 | http://www.mpec.jp/page/02kensyu/php/skillichiran.php |
| 滋賀県総合教育センター | 土曜セミナー (自主研修) | http://www.shiga-ec.ed.jp/kenshu/PDF/122.pdf |
| 奈良県立教育研究所 | サポート研修 ウィークエンド | http://www.nara-c.ed.jp/kensyu/html/support.html |
| 山口県教育研修所 | スキルアップ研修 土曜日プラン | http://www.ysn21.jp/2007/sukiru/saturday/saturday.html |
| | スキルアップ研修 理科フリープラン | http://www.ysn21.jp/2007/sukiru/rika/rika.htm |
| 愛媛県総合教育センター | ホリデーチャレンジセミナー | http://www.esnet.ed.jp/center/2000kenshukouza/hol_c00.htm |
| 熊本県立教育センター | 初任者宿泊研修 | http://www.higo.ed.jp/edu-c/kensyuu/h19/kihon.htm |
| 宮崎県教育研修センター | 土曜セミナー | http://mkkc.miyazaki-c.ed.jp/inf/gakusyukensyu.html |
| 鹿児島県総合教育センター | 土曜講座 | http://www.edu.pref.kagoshima.jp/doyoukouza/zissiyoukou.htm |

③ 研修講座の内容について

研修の大まかな内容を33項目に分類し、その中から5つまで選択してもらう形で、研修内容の希望調査を行った。以下、職種別にニーズの高かったものをあげ、上位のものについては、回答者の自由記述をもとに具体的な研修希望内容をまとめる。

ア 管理職のニーズ

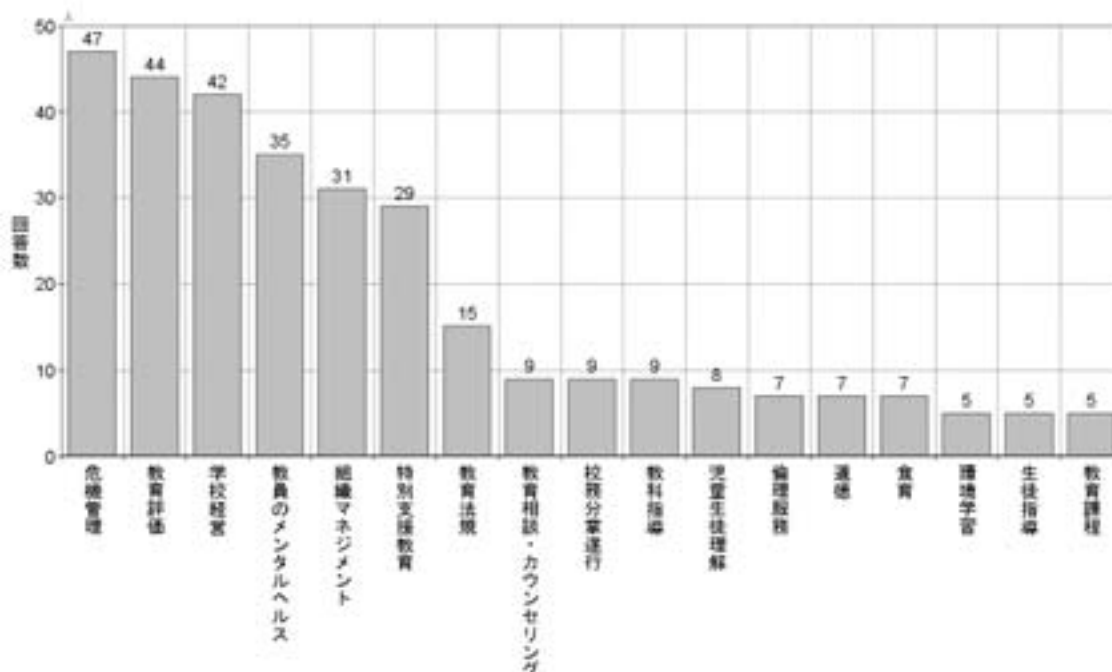


図9 研修希望内容（管理職 上位項目のみ）

平成18年度の調査結果では、学校経営、危機管理、教育評価、組織マネジメントなど学校組織の運営に直接関係する研修講座のニーズが高くなっていましたが、平成19年度は、危機管理、教育評価、学校経営、教員のメンタルヘルスの順になった。平成17年度の調査データとも比較してみると、特に年々大きく伸びてきているのは、危機管理、教員のメンタルヘルス、特別支援教育に対するニーズである。

また、昨今の社会的事情を考えれば、危機管理のニーズが高くなるのもうなずける。学校に想定される危機が多様化していることもその一つの原因であると思われる。教員のメンタルヘルスへのニーズが高いのは、具体的な記述の内容から考えると、多忙な学校現場の様子と職員のストレスの蓄積が背景にあり、年々それらの状況が悪化していることが調査結果に表れているのであろう。

また、特別支援の必要な児童生徒への支援については、特別支援学校等がその担当校をサポートすることになっている。それにもかかわらず、当所の研修講座として行って欲しいという高いニーズを示している。これは、回答者の具体的な記述によると、特別支援を必要とする児童生徒への対応というよりも、対象児童生徒を含めた学級の学級経営・教科指導など、個別的な対応だけでなく、学級全体での具体的支援をどのようにしていったらよいかと、悩む学校現場の様子が表れているものと考えられる。また、対象となる児童生徒の全体にしめる比率が、近年増加傾向であることもその背景にあると思われる。（文部科学省 平成14年実施「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」 http://www.mext.go.jp/b_menu/public/2002/021004c.htm）

【管理職の研修ニーズ：具体的記述内容】

| |
|---|
| 危機管理 |
| 具体的事例と対処策、他校の危機管理対策、不審者対策、災害時の対応 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○安全で安心して学べる学校環境づくり（危機対応についての情報交換） ○外部からのクレーム対応（不審者対策、マスコミ対策） ○学校全体で取り組む危機管理の効果的なやり方 ○不条理な保護者への対応と法的対応（モンスターペアレント、集金未納者） ○集団活動中の安全などについて（生命の安全、命に関わる危機管理） ○地震時・火災時の具体的対応事例 ○保護者・地域との連携の在り方（見守りボランティアとの良好な対応） |

| |
|--|
| 教育評価 |
| 評価方法、公正に評価する方法、学校経営への反映、外部評価の在り方 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○学校評価の項目・指標の作成の仕方と適切な評価方法 ○教育計画が改善できる効果的な教育評価の在り方 ○教職員評価、学校評価（外部評価も含む） ○他校との情報交換 ○内部評価、外部評価の具体的方法（県の方針を聞きたい） |

| |
|--|
| 学校経営 |
| 事例研究、企業の経営、人間的魅力、組織マネジメント |
| <ul style="list-style-type: none"> ○外部評価の活かし方などを含めた「地域に開かれた学校づくり」の事例研究 ○学校経営の実際（具体例を元にした研究） ○企業で活躍されている方の話（組織をまとめる人間的魅力） ○職員のやる気・能力を伸ばす経営の実際（職員の持つ個性を活かす経営） ○地域・家庭・保護者との連携・学校経営事例等（退職校長の話、民間校長の話） |

| |
|---|
| 教員のメンタルヘルス |
| 自己のメンタルヘルスの維持、職員のメンタルヘルス、ストレス解消法、多忙化解消、心の病気を発症した職員との接し方 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○日々のストレスケアができる研修（研修そのものがストレス解消になるもの） ○心に悩みを持つ教員、経験や力量が足りない教員への関わり方について ○面談の在り方（早期発見と支援法） ○多忙化を和らげ気持ちよく働くための手だて ○学校間競争の高まりに対するストレスマネジメント |

| |
|---|
| 組織マネジメント |
| 組織の活性化、企業の組織マネジメント、学校経営の評価、多様なニーズ |
| <ul style="list-style-type: none"> ○学校を機能的に運営するためのマネジメント ○学校現場を活力のある組織にするための方策 ○職員の意欲とチームワークをまとめる経営（管理職・中間管理職の在り方） ○地域・保護者の多様なニーズに応えるため、どのように取り組むと良いのか ○民間企業・市役所におけるマネジメント事例を中心にした研修 |

| |
|---|
| 特別支援教育 |
| 児童生徒への支援法、保護者への対応、校内体制、校内の意識改革 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○気がかりな子への対応とその保護者への対応（理解のない親にはどう接したらよいか） ○校内体制や具体的支援の在り方について ○校内の意識改革について ○校内・園内研修などの運営の仕方 ○全教職員対象の必修基礎知識講習 |

イ 教諭等のニーズ

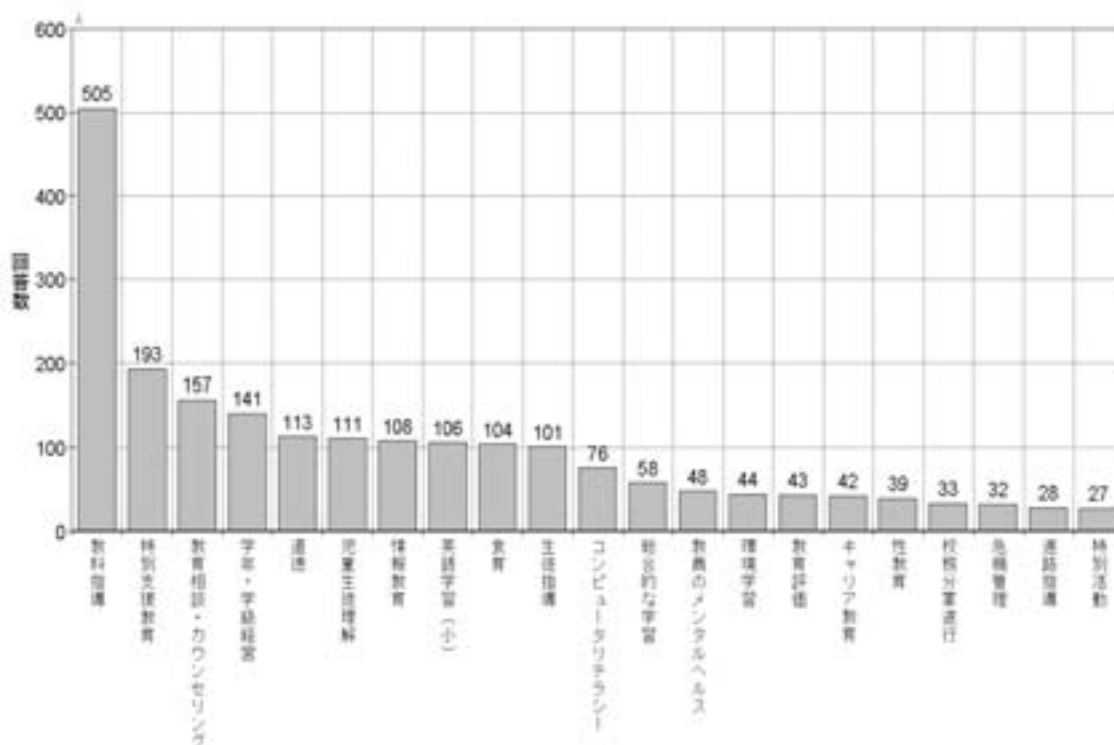


図10 研修希望内容（教諭 回答数上位項目のみ）

授業に直接携わることもあって、教科指導に関するニーズがもっとも高くなっている。以下、特別支援教育、教育相談・カウンセリング、学年・学級経営、道徳、児童生徒理解の順に高いニーズを示している。

また、教科指導以外の項目について、ここ3年間ニーズをのぼしているものには、特別支援教育、教育相談・カウンセリング、児童生徒理解などが挙げられる。特別支援教育のニーズの増加傾向については、平成19年4月から、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、すべての学校において、障害のある幼児児童生徒の支援をさらに充実していくこととなり、今まで以上にその支援について認識を深める必要に迫られていることがその背景にあるのだろう。特に小学校では、対象児童が学級に在籍する場合、どうしても担任1人に負担がかかりがちになる。このような状況を作りださないように、今まで以上に学校全体での支援の仕方について考えなければならないという現状とそれに対する不安が反映されたと思われる。また、教育相談・カウンセリング、児童生徒理解の増加傾向は、校種を問わず見られるが、特に小中学校では児童生徒のことに関するニーズだけではなく、保護者への対応に関するニーズが少なくない。教職員と児童生徒、児童生徒同士の関係に複雑さが増したことや、多様な価値観を持った保護者に対応していかなくてはならないという現状から、研修の必要性を感じている教諭が多いということであろう。

一方、中学校・高等学校でも、自分の専門を中心とした教科指導についての研修が多くなっているが、小学校と比較すると「入試」「学力を高める」というような研修目的を記述する教職員が多く見られた。進学ということを見据えた教育が行われる特性上、受験につながる学習指導の在り方を模索している状況を表しているのではないかと考えられる。高等学校では生徒指導の立場からの性教育についての研修を求める意見もあった。

ここでは、教諭全般という形でまとめたが、教諭のニーズについては、経験年数や校務分掌による差異があると考えられる。教員のライフステージに対応した研修については、後に述べる。

【教諭の研修ニーズ：具体的記述内容】

| 教科指導 |
|--|
| <p>指導法、入試への対応、指導事例、先進的な研究の紹介、特別支援対象児への支援</p> <p>＜国語＞ 読解力向上、音読指導、ことば、漢字、読書</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読解力をつけるための教材研究・指導法 PISA型読解力について ○ことばの力がつく授業展開 語彙を増やす指導法 ○ひらがな・カタカナ・漢字の定着を図るための指導の工夫 ○話す力・書く力を小中高と連携させて育成するには ○聞く力を育てる指導法（きちんと座って聞けない子が増えている） |
| <p>＜社会＞ 地域の教材化、視聴覚教材の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「社会が好き」と言える児童を増やし、興味関心に答える質の高い授業を目指して ○より新鮮な情報とそれを行かす授業づくり 教育課程との連動性 ○わかりやすい授業作りのポイント 視聴覚教材の取り入れ方 ○郷土の偉人を使った授業展開 テーマ学習の持ち方について ○資料の読み取り能力をつける教材や指導法 |
| <p>＜算数・数学＞ 指導法、学習が遅れがちな子への指導、算数嫌いの子への対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○初歩の指導法（数のとらえ方など、分野別に） ○算数が苦手な子への指導の工夫 個々の子どものつまずきに応じた指導について ○新しい算数の流れ（最近の指導案の書き方 系統性 重点内容） ○一斉授業の中で個人差に対応できる指導法 ○特別支援の必要な子どもたちへの算数指導について |
| <p>＜理科＞ 授業研究、実験・観察、受験、先進的な研究の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業の導入や生徒の興味関心を高める実験 自分自身の教養を高める講義・実験 ○教科書にある実験の具体的指導の手だて（実験などが苦手な教師に対応する内容） ○少人数での年数回の季節ごとの植物観察会（野外学習の行い方） ○センター試験対策 受験に特化した指導法 ○新素材や教材の紹介 新指導法の紹介 |
| <p>＜生活＞ 指導法、具体的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幅広く取り扱える単元において いかに関生活科の目標に見合った指導をすべきか ○具体的な評価方法について 子どもたちが自分の良さに気づく方法 |
| <p>＜英語＞ 不得意な子が多い集団の指導、リスニング指導、情報機器を活用した授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションかつ英語が身につく指導法 ○英語学習の必要性が感じられる指導法（英語を使って仕事をしている方の話） ○受験に有用な指導事例（高校） ○授業名人による実践 |
| <p>＜音楽＞ 指導法、音楽が苦手な子への指導、和楽器、民族楽器</p> <ul style="list-style-type: none"> ○和楽器・ラテン楽器の指導 ○音楽授業の進め方の具体例 楽しく効果的な鑑賞指導 ○音程を正しくとって歌えない子への指導 声変わりの男子への支援 ○発声法 合唱の指導法 リコーダーの指導法 |
| <p>＜保健体育＞ 指導事例、専門分野外の指導法、運動嫌いな子、生活習慣病</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの生活習慣病についての指導 ○生徒が主体的に活動できる保健の授業の実践・資料の提供 ○技能の差に着目した指導方法の工夫 ○専門外の種目の効果的な指導法 |
| <p>＜技術＞ ものづくり、ロボコン</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書に載ってないコストのかからないものづくり ○ロボコンの指導 子どもが楽しく取り組める教材 |
| <p>＜家庭＞ ものづくり、教材教具の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少ない授業時間で有効にできる効果的な実験・実習について（模擬授業） ○保育所での保育実習講座 ○教材を考えるワークショップ（体験型で） ○実習や製作中に多数の児童にどのように支援していったらよいか |

特別支援教育

特別支援教育概要、教科等の指導法、特別支援学校との連携、コーディネーター、普通学級における実践例研究、学校全体としての取組み、ADHD等の知識

- いろいろな子への関わり方・育て方 障害の特徴と接し方
- 障害を持つ児童生徒への学習指導や生徒指導の方法
- 学級全体一斉指導での個への指導の在り方
- 気がかりな子への対応とその保護者への理解の求め方
- コーディネーターとしての事例研究会 年間計画の立て方
- 発達障害について具体的な事例を交えた話
- 高校卒業後の進路指導について

教育相談・カウンセリング

不登校、カウンセリング、いじめ、保護者対応、エンカウンター、ソーシャルスキル

- いじめ・不登校・保健室登校の生徒への関わり方
- 受験期の相談
- 近年の保護者の情報や悩みとその対処
- 保護者との信頼関係・協力体制のつくり方（対応が困難な保護者との関わり方）
- カウンセリングの技法（事例を取り上げながら）
- ソーシャルスキルを高めるための技法
- 自己肯定感を高める方法 Q-U活用 分析法

学年・学級経営

学年主任、指導体制、校種異動、Q-Uテスト、リーダー育成、保護者対応

- 初めての学年主任対象
- 学年全体で児童を育てていくための指導体制について
- まとまりのある安心感もてる学級にするための必要指導事項
- 校種を異動した教員のための学級経営スキル講座
- リーダーの育て方 望ましいクラス経営
- Q-Uテストを活用しての学級経営
- 規範意識を高めるための指導法について
- 保護者への対応（クレーム処理など）

道徳

道徳教育全般、家庭地域との連携、副教材、家庭の道徳的教育力

- 教育活動全体を通じた道徳教育について
- 家庭・地域と連携した道徳教育
- 教材（資料・ビデオ）の紹介
- 効果的な副教材の使用法 子どもの考え方の引き出し方・まとめ方
- 情報モラルについて
- 心のノートを使っての指導 題材の取り扱い
- 家庭の道徳的教育力を高めるには
- 友達をたたいてしまう子への道徳的な指導について

児童生徒理解

保護者との関わり、今の子どもたち、問題行動、事例紹介

- 気がかりな子への接し方 保護者との関わり方
- 学級担任としての初歩的なカウンセリングスキル
- こどもたちの現状把握と理解
- 授業を妨害する生徒への支援法 集中力に欠ける生徒に対する対処の仕方
- 集団の中で生まれる子どもの気持ちに対する教師の支援
- 発達に障害がある児童の理解と対象児が在籍する学級の学級経営の在り方
- 問題のある児童生徒についての事例研究会

ウ 養護教諭のニーズ

昨年度の調査内容にも共通することであるが、文部科学省の性教育に関する考え方が大きく軌道修正されたこともあり、その方針についての説明、具体的な指導内容についてのニーズが高い結果となった。

また、日常の教育相談の窓口になることが多いため、教育相談・カウンセリングや児童生徒理解のニーズも高くなっている。

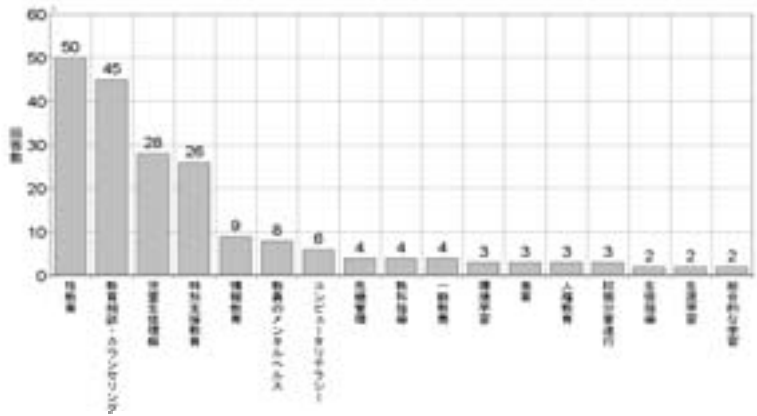


図11 研修希望内容（養護教諭）

性教育

新しい性教育の在り方、自己肯定感、児童生徒の実態

- 新しい性教育の年間実践事例と教材の紹介（推進校の発表・実践者の講演を通して）
- 子どもが「自分らしく 自分が好きで 自分が大切」と思える指導方法
- 障害を持った子への性教育の指導について
- 性病・避妊についての指導法
- 文部科学省の方針 子どもの実態を踏まえた指導について

教育相談・カウンセリング

保健室登校、保護者への対応、カウンセリング技法、特別支援教育

- 保健室登校の生徒への関わり方 場の設定 保護者への対応
- 育児書で子育てをしている親に対しての指導・コミュニケーションのはかり方
- 近年の保護者の情報や悩みとその対処
- カウンセリング技法
- 生徒の精神疾患や心身症に学校としてどのように関わればよいか

エ 事務職員のニーズ

前年度の調査では、コンピュータリテラシーを特に希望するものが多かったが、今年度の調査結果では、危機管理を研修希望としてあげるものが多くなってきている。回答者の自由記述から、事務職員の勤務状況は、来校者と直接対応したり、電話での対応が多かったりと、外部との対応の直接の窓口になることが多いことが原因であることがわかる。

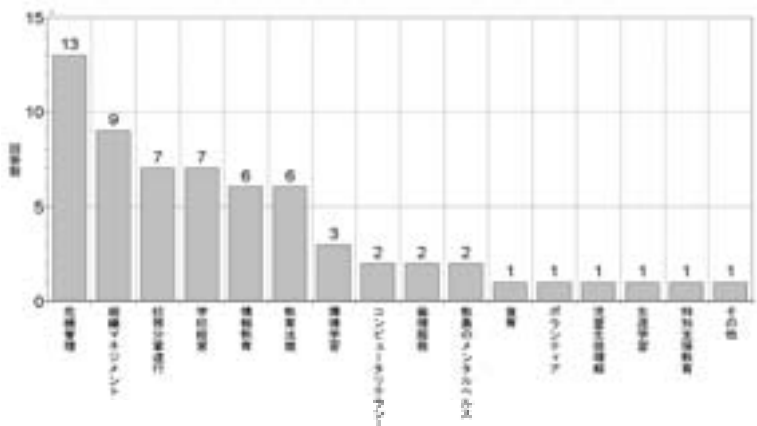


図12 研修希望内容（事務職員）

危機管理

窓口対応、災害時の対応、事例紹介、保護者対応

- 不審者対策（窓口での対応）
- 地震時の対応 火災時の対応 実例を聞きたい
- 電話・インターホンでの対応の仕方について
- 不条理な保護者への対応

(2) ライフステージを考慮した研修講座の在り方について

表2 経験年数とニーズの変化(着色:3%以上のもの)

| 選択項目 | 1年未満 | 2~5年 | 6~10年 | 11~15年 | 16~20年 | 21~25年 | 26~30年 | 31年以上 |
|--------------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 教科指導 | 24.7% | 20.4% | 29.2% | 21.9% | 29.3% | 20.4% | 9.1% | 9.2% |
| 道徳 | 6.0% | 7.9% | 9.1% | 5.1% | 2.9% | 9.1% | 2.4% | 2.1% |
| 食育 | 4.3% | 12.1% | 4.7% | 2.9% | 2.8% | 2.8% | 3.2% | 3.0% |
| 英語学習(小) | 2.7% | 2.6% | 2.8% | 5.4% | 6.7% | 4.7% | 4.8% | 2.4% |
| 情報教育 | 9.0% | 1.5% | 4.7% | 6.9% | 5.9% | 9.4% | 4.5% | 3.6% |
| コンピュータリテラシー | 1.9% | 2.9% | 8.8% | 4.1% | 4.0% | 9.9% | 2.8% | 0.9% |
| 児童生徒理解 | 4.7% | 5.7% | 4.0% | 4.4% | 3.4% | 4.9% | 4.0% | 5.0% |
| 生徒指導 | 7.0% | 5.9% | 9.2% | 6.6% | 9.7% | 1.0% | 2.7% | 2.1% |
| 性教育 | 3.0% | 0.8% | 1.2% | 2.4% | 2.4% | 1.9% | 0.8% | 0.8% |
| 教育相談・カウンセリング | 5.4% | 6.4% | 0.9% | 6.9% | 6.7% | 6.7% | 5.9% | 5.9% |
| 特別支援教育 | 5.7% | 6.0% | 6.7% | 7.5% | 5.9% | 11.4% | 10.7% | 11.2% |
| 学年・学級経営 | 9.7% | 9.9% | 6.9% | 6.1% | 5.2% | 5.7% | 1.6% | 1.2% |
| 教育評価 | 1.0% | 1.9% | 0.8% | 0.7% | 1.5% | 4.7% | 6.7% | 7.7% |
| 学校経営 | 0.7% | 0.0% | 0.0% | 0.5% | 0.9% | 1.6% | 5.8% | 6.5% |
| 経費マネジメント | 0.9% | 0.0% | 0.8% | 0.2% | 0.6% | 2.1% | 3.7% | 5.0% |
| 教育法規 | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 1.0% | 0.9% | 1.8% | 3.2% | 2.7% |
| 危機管理 | 0.7% | 1.1% | 0.9% | 0.7% | 1.5% | 2.1% | 9.6% | 7.1% |
| 教員のメンタルヘルス | 2.9% | 1.1% | 0.8% | 1.0% | 3.4% | 2.8% | 4.5% | 8.9% |

表2は、管理職、教諭、講師の研修内容のニーズを経験年数で分析したものである。ニーズの値がその経験年数で3%を越えたものには網掛けをしてある。この結果から見ると、教職経験年数21~25年においてニーズの変化が見られる。また、この時期は、初任者研修・5年経験者研修・10年経験者研修・新任教頭研修・新任校長研修といった悉皆研修がない時期と重なり、教職員のライフステージにおける転換期とも考えられる。

平成19年度現在、当所で行われている研修講座でこの時期とその前段階の研修を担っているものは、「中堅教員研修講座」「教務主任研修講座」「研究主任研修講座」「生徒指導研修講座」「教育相談研修講座」などであるが、受講対象者は、対応する校務分掌の1年目、または、将来その分掌を持つことを考えているものとなっており、内容的にはエキスパートを目指すというよりも、初心者コースという内容に近い。研修ニーズの調査に、「初心者のサポートだけでなく、さらに深まった内容で、新たな研修内容を考えて欲しい。」と記述されていたが、この言葉が示すように、学校運営・教科指導・教育相談の中心的役割を担うための、高度な内容の研修を求める声も少なくない。

今年度からは、臨時任用講師対象の研修講座が始まっている。はじめて教職に就くもののサポートはもとより、様々な問題に対応する全ての教職員を支えるためにも、「教職員のライフステージ」を考慮した研修体系となるよう設計し直していかなければならないと思われる。

V 研究のまとめと今後の課題

1 研修講座ニーズ調査の結果より

「福井県教育研究所の研修講座のニーズ調査」では、前年度の調査結果をふまえ、資料収集を行い、設問を構成してきた。ニーズのデータについては、夏期休業中の研修講座の受講者にアンケートをお願いし、十分な量を集めることができた。以下、研究のまとめとして教職員のニーズをもとに、私見ではあるが、考えられる研修講座を挙げる。

(1) 管理職が求める研修講座について

① 危機管理研修講座

昨今の社会情勢の下では、学校内での危機に的確に対応できる組織力が望まれている。未来を担う子どもたちが学ぶ学校は安全でなければならず、子どもたちをあらゆる危機から守るために、管理職を中心に職員がチームワークを発揮して「危機管理」のために行動していかななくてはならない。そのためには、他校の危機発生時の具体的事例やその対処について学んだり、大規模な自然災害時に陣頭指揮を執った人の体験談などを聞くことも必要であろう。

② 学校経営・組織マネジメント研修講座

これからの学校経営には、「組織マネジメント」を含めた「経営」に対する意識の変革が求められている。そのためには、退職校長や他校の校長からの「具体例を交えた実践的な学校経営」についてのアドバイスも今まで以上に必要だと思われる。また、学校内の組織をつくる上でも「教員のメンタルヘルス」についても十分な認識を持っていることも求められるであろう。そのためには、学校以外の企業経営者からトップとしてのリーダーシップの実践を学びながら、今までと違った視点で「学校の総合的な組織力」を高めていくことも必要であろう。

③ 地域や時代の求めに対応する研修講座

現代社会の様々な変化に対応するための研修も必要であろう。現代の子どもたちだけでなく、その保護者への十分な理解もますます求められるであろう。また、LD、ADHD、高機能性自閉症の子どもに対する指導支援について学ぶ「特別支援教育」など、管理職としてより広い視野で学校を運営するために様々な認識を深めていく必要があるだろう。

(2) 教諭等が求める研修講座について

① 各教科研修講座

教職員に求められる基本的な資質であるため、学校現場ですぐに活かせるものが求められている。他校の実践を学んだり、模擬授業を通して指導の実践を体験したり、教材教具を製作したり、指導技術を効率よく伝える工夫をしたりと、単に「ためになる」だけでなく、「役に立つ」と受講者に意識されるような研修講座を構成していく必要があるだろう。

② 児童生徒理解に関する研修講座

不登校、いじめ、問題行動など学校の子どもが抱える心の問題を解決するために、そして、学校に通う子どもたちの「人間力」を育成するために欠かせないことであろう。また、社会の情勢も学校の実態も教職員にその指導力を求めている。「児童生徒理解」「教育相談」「カウンセリングの技術」「特別支援教育」など、子どもたちの心の変化に対応できるよう、すべての教職員が常に日々学び続けていく必要があるだろう。

③ ミドルリーダー研修講座

学校運営のエキスパート、教科指導のエキスパート、教育相談のエキスパートなど、これからの学校教育を支えていく教職員をサポートする研修講座が求められている。昨今の学校の様々な諸問題にも柔軟に対応できる高い能力を身に付けることが求められている。各方面からの研修内容を取り入れて講座を構成していく必要があるだろう。

2 最後に

「研修講座のニーズ」調査では、学校現場が抱える様々な問題に対処しようと努力している教職員の姿が浮き彫りになった。今回の研究内容の本文には、記述しなかったが、教職員を目指すものに必要な資質能力についても、アンケートの中で答えていただいている。そこには、確かに教職員としての高い志と責任感が表れる言葉が数多く記述されていたことを最後に付け加えたい。

今後も、常に教職員の研修ニーズに応えながら、受講者に後々、「力づけられる研修だった」と感じていただける研修講座が当所で実施されることを願いたい。

最後に、本調査にあたり多大な御協力を頂いた受講者の皆様に、心より感謝申し上げます。

《参考文献》

- 大崎ふみ代(2006)「教職員の研修の在り方についての調査研究」『研究紀要』第111号、福井県教育研究所、pp. 33-44
- 白井 澄(1994)『社内で作れる研修教材－新人・中堅・管理職別 つくり方・活かし方－』経林書房
- 平松陽一(2001)『教育研修の効果測定と評価のしかた』インターワーク出版
- 文部科学省(2003)『通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査』
- 湯島雅俊(2007)「教職員の研修の在り方についての調査研究」『研究紀要』第112号、福井県教育研究所、pp. 29-40